

**製品名: Cdc7 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08531**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	70kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CDC7
別名	CDC7; CDC7L1; Cell division cycle 7-related protein kinase; CDC7-related kinase; HsCdc7; huCdc7
遺伝子 ID	8317.0
SwissProt ID	O00311
免疫原	抗血清はヒト CDC7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

**背景**

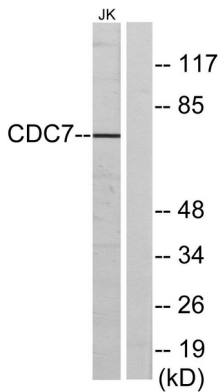
この遺伝子は、G1/S 期遷移に重要なキナーゼ活性を持つ細胞分裂周期タンパク質をコードしています。酵母ホモログは、細胞分裂が

起こる際の DNA 複製の開始にも不可欠です。この遺伝子産物の過剰発現は、一部の腫瘍の腫瘍性形質転換と関連している可能性があります。同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが検出されています。[RefSeq 提供、2008 年 8 月]、代替産物：多数のアイソフォームが生成される場合があります、触媒活性：ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。、補因子：マグネシウム。、機能：G1/S 期遷移や DNA 複製を制御する重要な基質をリン酸化するようである。MCM2 および MCM3 をリン酸化できます。、類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性：タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。CDC7 サブファミリー。、類似性：1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。、サブユニット：DBF4/DBF4A または DBF4B のいずれかと複合体を形成し、キナーゼ活性を活性化します。、

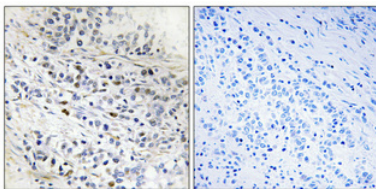
## 研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M\_DNA;

## 画像データ



CDC7 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。